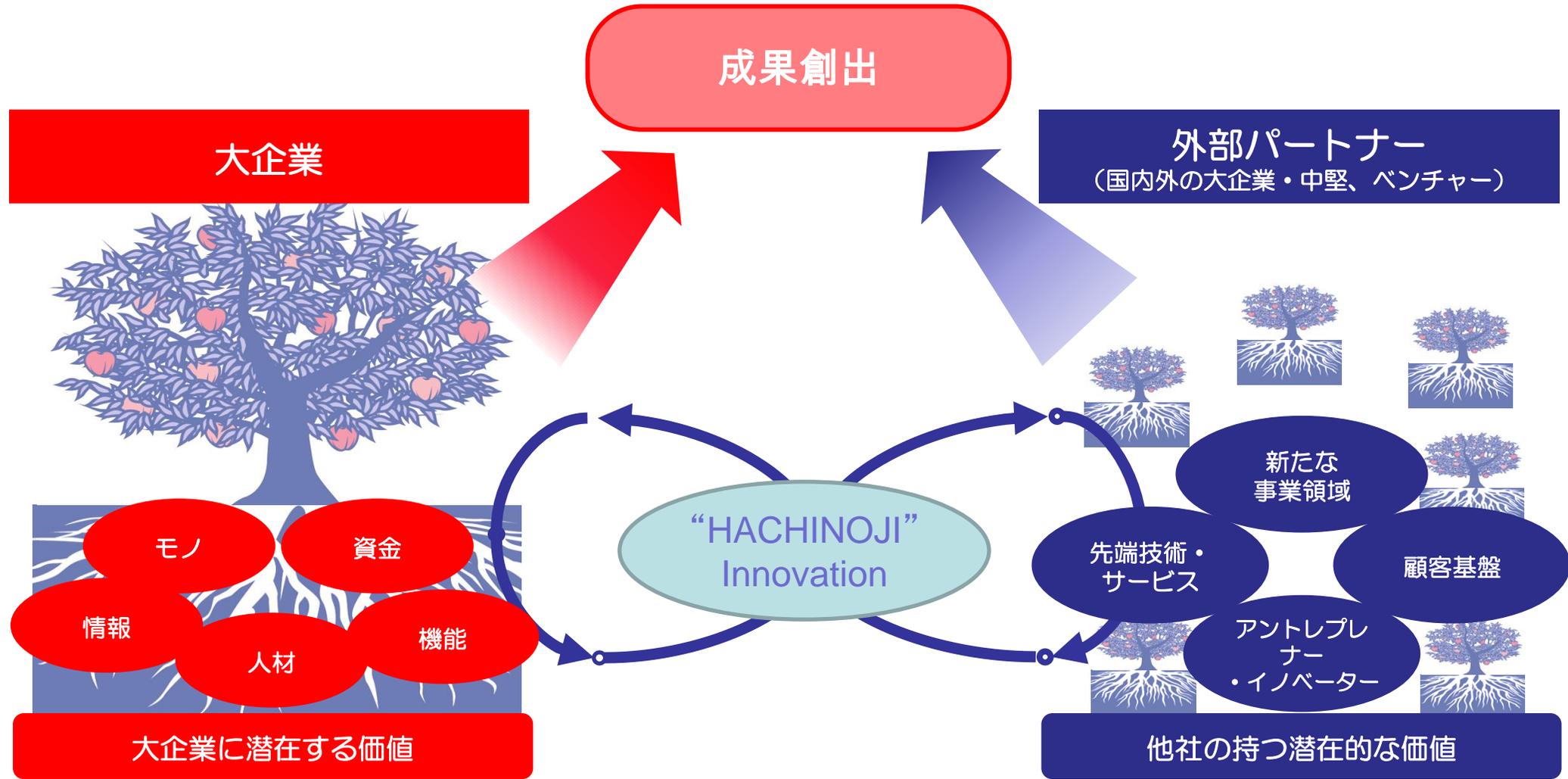


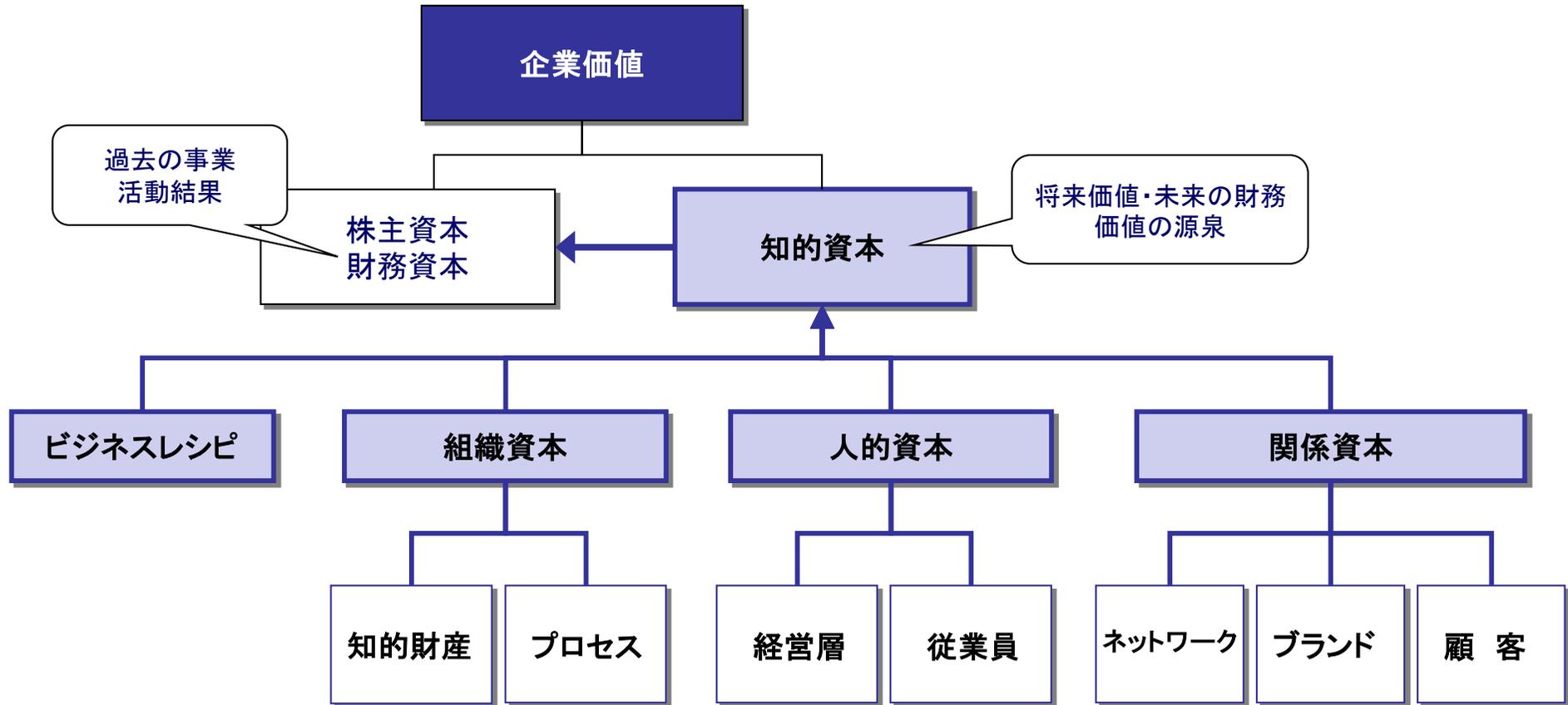
成果創出に向けた活動モデル

- 潜在的な価値(知的資本)を統合し、新たな価値・ビジネスを創出する



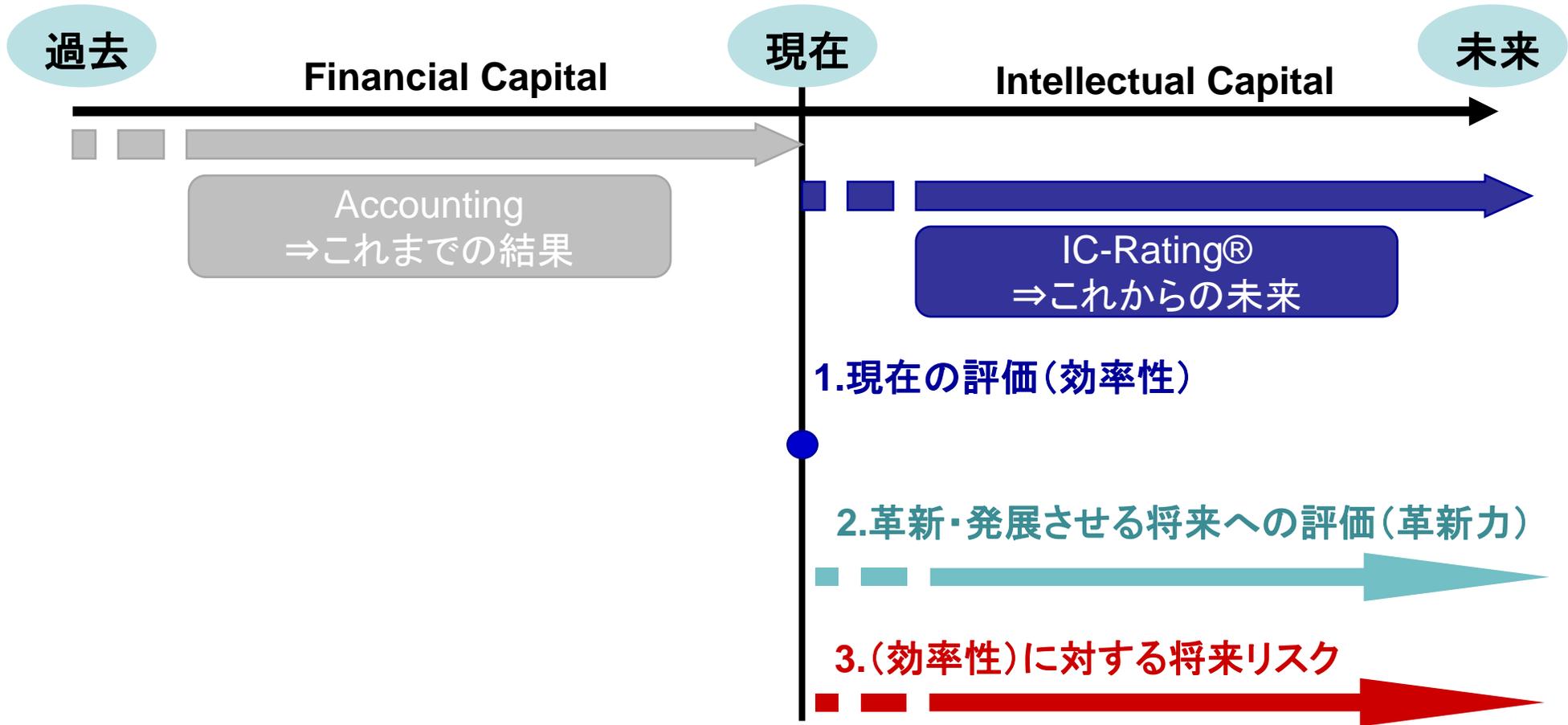
IC Rating® 知的資本の構成要素

- 「知的資本」は4構成により定義



IC Rating®の視点

- IC-Ratingは現在から未来を明らかにする
- IC-Rating では、現在から未来を、3つの視点で評価



IC Rating® 格付評価

■ 3つの視点を以下の段階で格付け

Efficiency (効率性)

AAA Extremely high efficiency
(極めて高い効率性)

AA Very high efficiency
(非常に高い効率性)

A High efficiency
(高い効率性)

BBB Relatively high efficiency
(比較的高い効率性)

BB Average efficiency
(平均的な効率性)

B Relatively low efficiency
(比較的低い効率性)

CCC Low efficiency
(低い効率性)

CC Very low efficiency
(非常に低い効率性)

C Extremely low efficiency
(極めて低い効率性)

D Absence of efficiency
(効率性の欠如)

Renewal (革新力)

AAA Extremely good efforts of innovation
(極めて優れた革新努力)

AA Very good efforts of innovation
(非常に優れた革新努力)

A Good efforts of innovation
(優れた革新努力)

BBB Relatively good efforts of innovation
(比較的優れた革新努力)

BB Average efforts of innovation
(平均的な革新努力)

B Relatively weak efforts of innovation
(比較的劣った革新努力)

CCC Weak efforts of innovation
(劣った革新努力)

CC Very weak efforts of innovation
(非常に劣った革新努力)

C Extremely weak efforts of innovation
(極めて劣った革新努力)

D Lacking efforts of innovation
(革新努力の欠如)

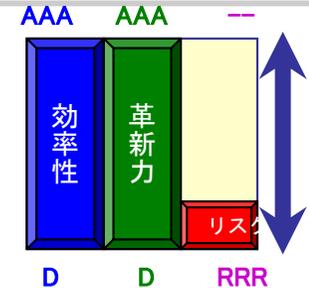
Risk (リスク)

-- Negligible risk of a decline in efficiency
(効率性低下の無視しうるリスク)

R Moderate risk of a decline in efficiency
(効率性低下の中程度のリスク)

RR High risk of a decline in efficiency
(効率性低下の高いリスク)

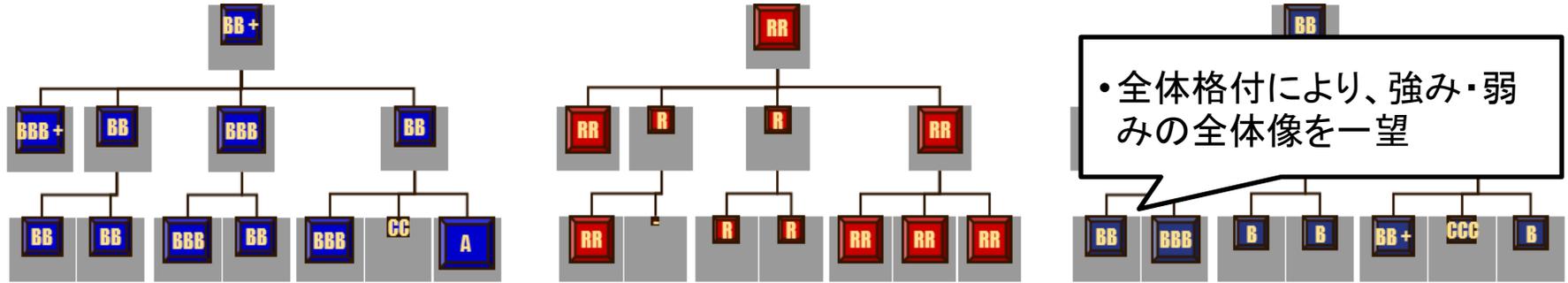
RRR Very high risk of a decline in efficiency
(効率性低下非常に高いリスク)



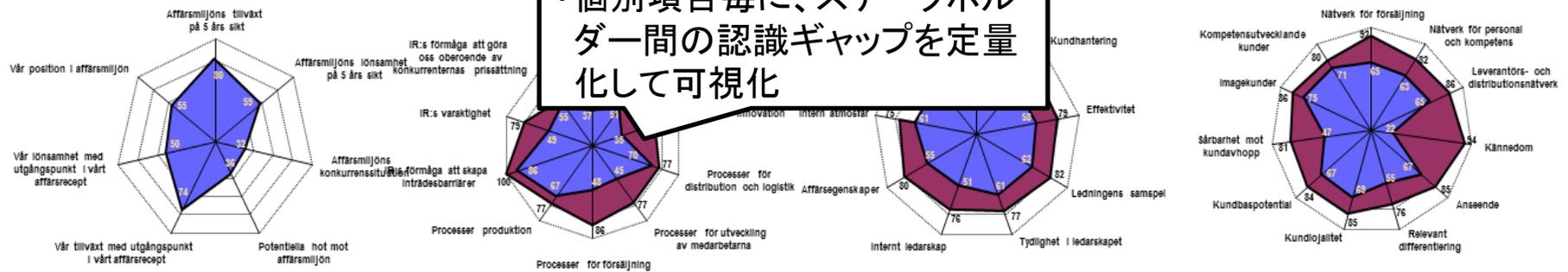
IC Rating®の評価アウトプット - Holistic Approach -

■ 企業の知的資本を網羅的に可視化

格付



評価スコア



定性コメント

●「基本的にプロジェクトは任されていて自分たちでやることになっていますが、最終的な判断はマネージメントがすることがしばしばあります。」

●「会計責任者も兼ねたプロジェクト・リーダーがいて、一つのプロジェクトを引っ張っていきます。ただ、もっと積極的にビジネス展開を図るためには、マネージメントではなく、中堅どころの社員へ大胆に権限を委譲する必要があります。」

●「組織構造は非階層的には見えますが、6、7割のスタッフがA社社出身なため、その階層的な旧弊から抜けきっていません。」

●「うちに階層なんてモノはあんまりないよ。トップがいて一般社員がいるだけ。社長を含む偉い連中も企業経営だけに専心してあげて、実際のプロジェクトにどんどん出てますよ。」

●「財務、法務、技術部門は責任者の命令系統が明白で、開発部門は権限がもっと分散されています。」

●「立ち上がったばかりの企業なので、我々が先ず優先すべきでないのは、経営、財政面での安定であり、需要の現状を見ても、骨太の戦略開発は当面の課題ではないと思われます。」

●「コンサルティングがマネージメントのコア・コンピテンシーなので、新規事業を開発するというのはなかなか難しいです。でも、コンサルティングのバックグラウンドを持たないNさんは例外で、彼は新規事業開発に積極的です。」

●「マネージメントの頭ん中にあるのは、短期的にはコンサルティングと移動体通信関連のジョイント・ベンチャーなんですけど、最終的にこうしたいってもんがない。企業戦略の開発にもっと力を入れなきゃだめですね。」

●「課題やボトルネックの認識を、生々しいコメントで抽出」

●「役員すべてがかなり変動の激しい業界にいたことで、誰しもが敏捷性に長け、最先端技術をビジネス・チャンスに結びつける用意は常にできている。」